

雑 報

定例研究報告会の開催

(昭和59年7月～9月)

| 〈回〉 | 〈年月日〉 | 〈報告題名〉 | 〈報告者〉 |
|-----|------------|---|------------------------------|
| 9 | 昭59. 7. 11 | 地方都市人口の変動と食行動..... | 内野 澄子技官 |
| 10 | 昭59. 9. 19 | 国際人口会議概況報告..... | 岡崎 陽一技官 河野 稠果技官 |
| 11 | 昭59. 9. 26 | 昭和58年度実地調査「結婚に関する人口学的調査」の結果 の概要..... | 阿藤 誠技官 今泉 洋子技官 金子 隆一技官 |

昭和59年度実地調査の施行

本研究所においては、昭和59年度の実地調査として「家族周期と女子の就業行動に関する人口学的調査」を実施した。その調査要綱を掲げると次のとおりである。

「家族周期と女子の就業行動に関する人口学的調査」実施要綱

1 調査の目的

婦人の一生を通してみた就業行動は、結婚や出産育児・子供の教育期などの家族の生活段階によって大きく変化するといわれている。しかし、自営業の仕事や長く勤めを続けている人のように、家族の生活段階に影響されない就業行動もある。

近年、世界各国で婦人労働力が増加し続けており、わが国においても例外ではない。特に、結婚し家庭をもっている婦人労働力が非常に増加している。結婚している婦人労働力のなかには、子供が生まれたり勤めをやめたり、逆に、子供が大きくなってから勤め始めたりする人がある。このように、婦人の就業行動は近年、非常に多様になっているが、その実態は必ずしも明らかになっているわけではない。

この調査は、婦人が家族の生活のどのような状況のときに、どのような就業行動をとるかを調べて、その実態を把握することを目的としている。

また、その結果は、将来における婦人の就業行動を予測するための貴重な資料となることが期待されている。

2 調査の地域

全国から3市1町を選んで実施する。選定された地域は、次のとおり。

| | |
|--------|---------|
| 岩手県盛岡市 | 神奈川県藤沢市 |
| 富山県井波町 | 鹿児島県国分市 |

3 調査の対象及び客体

20歳以上50歳未満の有配偶女子を対象とする。

| | |
|---------|--------|
| 岩手県盛岡市 | 2,000人 |
| 神奈川県藤沢市 | 3,500人 |
| 富山県井波町 | 1,500人 |
| 鹿児島県国分市 | 2,000人 |
| 4地域計 | 9,000人 |

4 調査の時期

昭和59年10月1日現在

5 調査方法

調査員を委嘱し、それぞれの地域の調査員が、調査票を配布し、配票自計、密封回収方式によって回収する。

6 調査事項

- (1) 夫婦の基本的属性
- (2) 家族のライフ・ステージに関する事項
- (3) 妻の就業歴に関する事項
- (4) 妻の就業に関する意識

7 調査機関

厚生省人口問題研究所が行い、市役所および町役場の協力を得て実施する。

8 結果の集計及び公表

集計は厚生省人口問題研究所が行い、結果は速やかに公表する。

日本統計学会第52回大会

日本統計学会昭和59年度（第52回）総会および研究報告会は、7月25日（水）から27日（金）までの3日間にわたり、筑波大学（茨城県新治郡桜村）において開催された。

本年度の研究報告会は8題に上る共通テーマを始め、史上最多（予定された報告数161）という盛り沢山のプログラムが編成されたが、「疾病・死亡構造の統計的解析」、「失業問題と雇用統計」、「日本の調査統計データの利用の実態とその問題点」などの共通テーマに関する研究報告のなかに、興味をひく報告が多くあった。そのなかで、われわれの参加した「疾病・死亡構造の統計的解析」における報告の主なものを挙げると次のとおりである。

| | |
|--------------------------------------|--------------------------|
| 死亡力の社会経済的決定要因について—昭和期（1945年～）を中心として— | 大塚 友美（日本大） |
| 日米の平均寿命と死因構造の分析 | 山口 喜一（人口問題研） 高橋 重郷（"） |
| 日本・台湾・米国における死亡構造の統計的解析 | 階堂 武郎（筑波大） |
| わが国における自殺および不慮の事故死亡の月別変動に関する統計的解析 | 内藤 雅子（東京大） 根岸 龍雄（"） |

このほかにも、例年どおり「人口統計」に関する部会が設けられたが、他部会の研究報告プログラムのなかのものをも含めて、人口に関連のある報告を列挙してみると次のとおりである。

〔人口統計〕

| | |
|---------------------------|--------------------------------|
| マイクロ・シミュレーションモデルによる世帯情報予測 | 岡崎 陽一（人口問題研） 伊藤 達也（"） ほか |
| 人口増加率に対するパラメータ変化の影響 | 太田 邦昌 |
| 大都市圏人口の社会増加に関する分析 | 川崎 茂（国土庁） |
| 人口移動圏と医療圏 | 大久保正一（日本大） |
| 身分別死産性比の統計 | 緒方 昭（福井医大） 臼井竹次郎（ほか） |

〔その他〕

| | |
|---------------------------|------------------|
| センサス及び継続調査の施行頻度について | 斎藤金一郎（上智大） |
| 日本の3つの異った時期における年齢別死亡統計の比較 | 飯淵 康雄（琉球大） ほか |

(山口喜一記)